

P コース <沼久保地区>

渡船と舟運の跡をたずねるコース

— みどころ —

かつて富士川は甲斐国と駿河国を結ぶ重要な流通路であり、その船着場の一つがあった沼久保地区は交易地として栄えていた。富士川を臨む里を歩く。

みどころポイント 石造物 寺社

スタート
沼久保 水辺の楽校
沼久保二〇五

① 子安八幡宮
② 観音堂(閻魔堂)
③ 貴船神社
④ 身延道の道標
⑤ 疣神さん

川沿いにある
民家の裏手
橋の下をぐる

富士川
逢来橋
ゴール

スタート&ゴール
沼久保水辺の楽校* P

*車を停める場合は舗装部分にお願いします。
*開門時間: 5~10月 朝7:00~夕6:00
11~4月 朝8:00~夕5:00

⑥ 沼久保駅の句碑
⑦ 渡船場跡
⑧ 舟運舟場跡

200m

距離: 約5km 所要時間: 約2時間

マークの凡例: 観察ポイント ● 説明板 ▲ トイレ 駐車場 P 寺院 神社

石造物 ルート —

— コースのみどころ —

①子安八幡宮

昔、富士川を流れてきた不思議な石を祀ったところ安産の靈験があらたかであったという。

②観音堂(閻魔堂)

ここにはかつて富士横道観音霊場巡りの第五番札所岳松寺がくしやうじがあった。岳松寺は現在市内光町に移転している。

堂内には閻魔十王像などの石仏が祀られており、堂近くには観音像や地藏像が祀られている。また、境内入口左側に不動明王を祀る小堂がある。

③貴船神社

沼久保地区の氏神である。ここは沢が大きく蛇行し、大雨の際には急流となる危険な箇所である。沼久保地区は水が得にくい場所であり、貴船神社をはじめ水神が多く祀られている。また、貴船神社と道を挟んだ西側には「金光山栄立寺」と記された題目塔がある。

④身延道の道標

「身延道」とは身延山久遠寺みのぶさんくおんじ(山梨県身延町)に到る道である。沼久保地区には、東海道を東から来て星山ほしやまを通り沼久保へ出る道筋と、市中心部から安居山あごやまを経て沼久保へ出る道筋の2通りの道筋が通っている。この道標は、2つの道筋が合流する所に建てられている。

⑤疣神さん

穴の開いた大きな石(溶岩樹型)である。石の穴に溜まった水を疣につけて、家の敷居を跨ぐまで振り返らずに帰ると疣が取れるといわれた。

⑥沼久保駅の句碑

俳人高浜虚子たかほまきよしの句碑があり、昭和33年(1958)身延線で富士駅から下部温泉へ向かう途中披露した句が刻まれている。隣には、富士宮市の俳人堤俳一佳つづみはいいつかの句碑がある。

⑦渡船場跡

かつて逢来橋ほうらいの少し上流の沼久保側の岩場と、対岸の富士市松野まつのの河原との間に渡船が運航していた。昭和34年(1959)、コンクリート製の逢来橋が開通し、渡船は廃止された。渡船は、川の上に張られたワイヤーロープに滑車を掛け、その滑車に舟をつないで急流に流されないように工夫されていた。

⑧舟運舟場跡

* 写真は舟運を再現した様子

沼久保地区には富士川舟運の船着場である河岸かかしがあり、中央線や身延線の開通により富士川舟運が衰退するまでの間、富士宮市の運送・交通の玄関として機能していた。

富士川舟運

慶長12年(1607)、徳川家康の命により京都の豪商角倉了以すみのくらりやういが開いた航路であり、江戸時代から明治時代にかけて甲斐国(山梨県)と駿河国(静岡県)を結ぶ物流・交通の大動脈として機能した。

江戸時代には、甲斐国からは年貢米を中心に雑穀・薪炭・寒天などが運ばれ、駿河国からは塩を中心に砂糖・肥料・日用品などが運ばれた。年貢米の輸送量は年間5~6万俵に及んだという。また、輸送には浅瀬に強い高瀬舟せぶねが使われた。甲斐国かじかざわ鰍沢から駿河国いわた岩淵いわたまで、下りは半日、上りは4~5日かかったという。